

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん

こ

ち

しん

# 温故知新

しもはっかさがの

下八ヶ佐加野用水を開いた

ひょうくろう

安藤兵九郎 (1643~1708)

兵九郎は射水郡大白石村(現射水市/旧下村)の十村・石川又太郎の次男として生まれ、母の実家である砺波郡宮丸村(現砺波市)の十村安藤家の分家・次郎四郎の養子となりました。父は1655年加賀藩の許可を得て、小矢部川左岸(国吉~二上村辺り)に残された荒れ地の開墾に取り組んでいました。成長した兵九郎は父を助けて懸命に働き、1660年には600数十石もの土地を開墾しました。しかし、日照りが続き干ばつとなり、農民の生活苦は深刻となりました。

1662年、兵九郎は父の名代となり、この地に用水を開くことを決意します。1673年、兵九郎は二上村に移住(1681年に下八ヶ新村に移転)して、五十里村の十村・高

島庄助、内島村の十村・五十嵐孫六らの協力を得て地勢や水脈などを詳細に調査しました。そして、小矢部川左岸の現福岡町三日市で取水し、二上地区まで約14kmの下八ヶ用水と四日市で分岐する佐加野用水を開く計画を立て、藩の認可を得ました。途中、用水はサイフォン(高低差と水圧により川の下に水路を通す技術)により広谷川(2ヶ所)と頭川(1ヶ所)の下を潜っています。兵九郎は全財産を投げうって約500人の農民を動員し、工事を指揮監督しました。藩からも金沢の笠舞町から百姓15人の派遣や銀・材木が下付されました。

そして16年後の1689年工事は完了し、423haの水田に絶えず水が行きわたるようになりました。用水開通前の約4~5倍もの米が取れたといわれ、現在でもこの地域のお米はブランド米として有名です。(仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館 TEL 20-1572



安藤兵九郎君遺徳碑  
(二上公民館前)